

公民科（公共）

1 単元名 A 公共の扉 (3) 公共的な空間における基本的原理

2 単元の目標

- (1) 各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解する。
- (2) 人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。
- (3) 公共的な空間における基本的原理について、概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。
- (4) 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現に向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりしようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none">・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解している。・人間の尊厳と平等、個人の尊重、民主主義、法の支配、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解している。	<ul style="list-style-type: none">・公共的な空間における基本的原理について、概念的な枠組みを用いて考察する活動を通して、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現している。	<ul style="list-style-type: none">・国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現に向けて、幸福、正義、公正などに着目して、課題を追究したり解決したりしようとしている。

4 指導と評価の計画

「指導と評価の計画」の工夫

- ・本単元は、「学習指導要領」において、日本国憲法との関わりに留意して指導することとされている。これを踏まえ、単元の前半(3次)では、人間らしく生きることと日本国憲法の基本的原則などとの関連を考える学習を設定した。
- ・単元の後半(4、5次)では、具体的事例や先人たちの考えを題材として、人間の尊厳と平等、個人の尊重などを踏まえながら、よりよい社会の実現のために自分は何ができるだろうか、どのような生き方を目指したらよいのだろうか、などに迫る問いを設け、それらの課題を追究したり、解決したりする活動を計画した。
- ・「評定に用いる評価」(記録に残す評価)の場面を、単元の後半(4、6、7次)に設定し、獲得した知識等を活用できているか、自分の考えが深まったかについて確認できるよう、評価方法を工夫した。

次	学習活動等	評価の観点			評価規準(評価方法)
		知	思	態	
<p>単元を貫く問い よりよく生きることが理想の社会とは、どのような社会なのだろう。</p>					
1 事例 1	<p>問い 「人間らしい」生き方を尊重するために、大切にすべきことは何だろう？</p>				
	<p>◇人間と動物、人間とAIとの違いや先人たちの考え方を理解し、それらを基にして「人間らしさ」について話し合う。</p> <p>◇近代の人間像を踏まえ、よりよく生きるために必要なことについて追究しながら、ワークシートにまとめ、単元を貫く問い に迫る。</p>	○			<p>○ベーコン、デカルトの基本的な考え方をまとめ、合理的な思考について理解している。(単元末のペーパーテスト)</p> <p>●人間の尊厳や個人の尊重の大切さについて、「人間らしさ(=近代の人間像)」を踏まえて追究している。</p>
2	<p>問い 「国家」はなぜ必要なのだろう。</p>				
	<p>◇「もしも国家が無くなってしまうと、社会はどうなるだろうか」というテーマについて話し合う。</p> <p>◇先哲による社会契約説の考え方を理解し、国家に求められる役割についてまとめる。</p>		●		<p>●多面的・多角的に考察し、話し合いを深めている。</p> <p>●民主政治への流れを捉え、国家に求められる役割を理解している。</p>
3	<p>問い 日本国憲法はなぜ、「最高法規」なのだろう。</p>				
	<p>◇日本国憲法の基礎にある考え方に着目し、憲法と法律の違いを理解する。</p> <p>◇男女が共同して社会に参画することについてどのような課題があり、その課題を是正するためにどのような取組が必要かについて考察する。</p>	●		●	<p>●日本国憲法の基本的原則について理解している。</p> <p>●すべての人の人権が尊重される社会の実現に向けて、様々な取り組みができることに気付いている。</p>
4 事例 2	<p>問い どのようにルールを決め、どのように運用したらよいだろう。</p>				
	<p>◇学校のきまりや、公共の場でのマスク着用などの具体的事例を基に、自分の考えをまとめ、その考えを生徒同士で共有する。</p> <p>◇授業の内容を踏まえ、どのようにルールを決め、どのように運用したらよいかについて、自分の考えをワークシートにまとめる。</p>	●		○	<p>●多様な考え方があることから生まれるルール運用に関わる課題を理解している。</p> <p>○よりよいルールづくりに必要なことについて、考察している。(ワークシート)</p>
5	<p>問い 「よりよく生きる」ために何ができるだろう。</p>				
	<p>◇マザーテレサやガンディなどの先人の生き方と考え方を学び、他者との関わりの視点から、「よりよく生きる」ことについて、考えたことを生徒同士で共有する。</p>		●		<p>●先人の生き方や考え方を踏まえ、「よりよく生きる」とはどのようなことか、自らと他者との関わり方について、主体的に考察している。</p>

事例3	6	学習課題 これからどんな社会をつくっていったらいいのだろう。 ◇ 単元を貫く問い について、本単元のはじめに記入した内容と比較し、考えが深まるきっかけとなった他者の意見や、自分に新たに加わった視点などについてまとめる。			○	○よりよく生きることができる理想の社会の在り方について、考えが深まるきっかけとなった意見や、新たに加わった視点などを踏まえて、理想の社会の実現に向けて自覚を深めている。 (ワークシート)
	7	◇ 定期テスト 大単元「A 公共の扉」全体を範囲とするペーパーテストに取り組む。	○	○		

5 事例1 観点別学習状況の評価の進め方 **知識・技能**

(1) 第1次の目標

先人たちの考え方について理解を深めるとともに、「人間らしい」生き方を尊重するために大切なことについて単元の見通しを立てる。

(2) 第1次の評価規準

ベーコンやデカルトの基本的な考え方をまとめ、合理的な思考について理解している。(単元末のペーパーテスト)

(3) 指導と評価の流れ

〔指導の工夫〕 ・ベーコンやデカルトなどの思想について知識の定着を図るだけでなく、先人たちも自分たちと同様に考えていたことに気付かせ、先人の考え方を深く理解できるように、生徒同士で話し合う場面を設定した。
〔評価の工夫〕 ・単なる知識を問う問題ではなく、授業での学びを活用して、先人の考え方を深く理解しているかを問う問題で評価した。選択肢に「うさぎ」を入れ、概念的な知識を問うことができるようにした。

学習場面	学習活動 (◇ 学習活動、留> 指導上の留意点)	「評定に用いる評価」の評価規準(評価方法)
問い	「人間らしい」生き方を尊重するために、大切にすべきことは何だろう？	
導入	◇ 近代国家の前提として、合理的な思考が挙げられることを理解する。 留>これから学習する「公共的な空間における基本的原理」(=理想の社会)は、人間としての在り方生き方を尊重するためのものであることを意識させる。	
展開	「人間らしさ」とは何か考えてみよう！ ◇ 「人間は○○だけど、動物は○○」のように、人間と動物とを比較して気付いたことを書き出し、生徒同士で話し合う。 留>「生き方」や「行動」、「理性」など、考えるきっかけとなるキーワードを示しながら、導入部の内容を深められるよう工夫する。 ◇ ベーコンやデカルトの思想と関連付けながら、合理的な思考を追い求めた先人の考え方を理解する。 〔指導の工夫〕 留>帰納法や演繹法、物心二元論(心身二元論)などについて、図や具体例などを用いて説明する。	○ベーコンやデカルトの基本的な考え方をまとめ、合理的な思考について理解している。 (単元末のペーパーテスト)

	「合理的」であればあるほど幸せになれるのだろうか？	
	◇ 人間とA Iについて、できることとできないことを例示し、それらを基に、生徒同士で意見を共有する。 留>合理的に「正しさ」を追求するだけでは、必ずしも、人間の尊厳を守ることにはならないということに気付かせる。	
ま と め	「人間らしい」生き方を尊重するために、大切にすべきことは何だろうか？	
	◇ 動物と比較した「人間らしさ」、A Iと比較した「人間らしさ」を基に、「人間らしい」生き方について自分の考えをまとめ、生徒同士で意見を共有する。 留>人間の尊厳や個人の尊重など、「人間らしい」生き方において大切にすべきことを追究できるようにする。	

(4) 「知識・技能」の評価例

【単元末のペーパーテストの例】

合理論の立場に立つ代表的な人物がデカルトである。デカルトは、方法的懐疑を行いその結果、「我思う、ゆえに我あり」という言葉に表現される境地に達した。そして、理性の働きこそが絶対確実な第一の原理であると主張した。この第一原理に基づいて、デカルトはすべての事象をとらえ直し、正しい論証を積み重ねることで、あらゆる知識を必然的に導こうとした。このような方法を演繹法という。

デカルトは、考える精神を一つの実体とする一方で、空間に延長する物体をもう一つの実体とした。この立場を心身二元論(物心二元論)という。このようなデカルトの考えは、精神を持つのは人間だけであり、したがって動物は機械であるという主張によくあらわれている。

〔問〕下線部によると、次の五つは二つのグループに分けられる。どのように分けられるか、分けた結果を答えなさい。

「 自分 ・ うさぎ ・ 消しゴム ・ リンゴ ・ 先生 」

【正答】

「自分・先生」と「うさぎ・消しゴム・リンゴ」の二つのグループに分けられる。

【評価の結果】

正答と誤答の割合は概ね半々であり、誤答の大半は、【自分・先生・うさぎ】と【消しゴム・リンゴ】のグループに分けられるとした解答だった。誤答の原因については、デカルトの考え方を十分に理解していなかった生徒が下線部を読んで、うさぎにも精神があると考えたからではないか、と推測した。

【評価の結果から授業改善と評価方法の改善】

生徒は、解答の根拠となる知識について、しっかり理解できていると正答を導くことができる。しかし、知識を関連付けて整理することが苦手な生徒もいることから、授業の途中において、生徒の理解の程度を見取る発問等が必要だと感じた。

また、獲得した知識をより高いレベルにおいて活用できている生徒を判別するために、「A Iを搭載したロボットは機械なのか」と問いを設け、その根拠についても記述させる出題を追加することもできると考えた。解答にはデカルトの知識だけではなく、人間と比較したA Iの特性についての知識も必要となり、深い理解が求められるからである。

6 事例2 観点別学習状況の評価の進め方 思考・判断・表現

(1) 第4次の目標

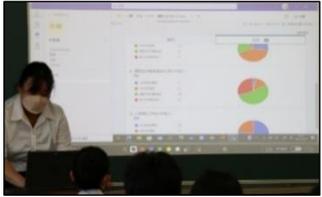
多様な考え方がることから生まれるルールへの運用に関わる課題を理解するとともに、よりよいルールづくりに必要なことについて考察し、生徒同士で意見を交換し、共有する。

(2) 第4次の評価規準

よりよいルールづくりに必要なことについて考察している。

(3) 指導と評価の流れ

<p>〔指導の工夫〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 日常生活の一場面を題材として、生徒同士で話し合い、相互の考えを比較しながら、自らの考えを再構築する場面を設定した。 <p>〔評価の工夫〕</p> <ul style="list-style-type: none"> よりよいルールづくりと運用について、ワークシートに記述された内容を評価した。生徒が記述しやすくなるように、二つの考えをまとめるよう問いに示した。
--

学習場面	学習活動（◇ 学習活動、留> 指導上の留意点）	「評定に用いる評価」の評価規準(評価方法)
問い	どのようにルールを決め、どのように運用したらよいだろう。	
導入	<p>ルールの大切さを確認しよう。</p> <p>◇ カント、ヘーゲルなどの思想の要点について再確認する。</p> <p>留>「自由」に生きていくためには、ルールによる規制も必要であることを確認させる。</p>	
	<p>ルールはどのようにして決まったのだろう。</p> <p>◇ 「高校生は髪を染めてはいけない」、「声を出さなくても、室内ではマスクを外してはいけない」などの項目について、「とてもそう思う」から「全くそう思わない」までの4段階の選択肢から、自分の考えに近いものを選ぶとともに、判断のより所とした内容についてまとめ、共有する。〔指導の工夫〕</p> <p>留>意見の共有を通して、ルールに対する考え方が、人によって異なることを実感させる。また、現在のルールが、話し合い等により調整されて決められたものであることを理解させる。</p>	
展開	<p>ルールの運用において、どのような工夫がされているのだろう。</p> <p>◇ ルールの見直しの事例(学校の校則、人権に関わる法改正など)に関する資料を読み、なぜルールは見直しがされることもあるのかについて話し合う。</p> <p>留>ルールがつけられた本質を見失い、ルールを人々に守らせることだけに終始することは、人権を侵害してしまうなどの危険性をはらんでいることを理解できるように気付かせる。</p>	

ま と め	◇ 授業の内容を踏まえ、 問い について、自分の考えをワークシートにまとめる。 留>ルール ^の 運用に関わる課題と、よりよいルールづくりに必要なことについて示せるよう、まとめるポイントを説明する。	○よりよいルールづくりに必要なことについて考察している。 (ワークシート)
-------------	---	--

(4) 「思考・判断・表現」の評価例 (ワークシートにおける生徒の記述)

【評価Bの例】

ルールとは、人の行動力を制限するためにできたもので、決めた人の思い通りに運営され
 しよう。ルールは、しっかり考えてから作らなければ、人をただ強制するだけの不快感を生み
 出すものになってしまう。

- ・ルール^の運用に関わる課題と、よりよいルールづくりに必要なことについて記述されていることから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

【評価Aの例】

人が持つ尊厳をそなわないルール作りが
 必要だと思いました。特にブラック校則を見て
 考えたのが、フーコーの主張する「規律化」とブラック校則は
 当てはまるのか？ということです。校則は子供たちに
 高い教養を身につけるためのルールですが、一方で
 それが個人の尊厳をそなう内容になっている場合も
 あります。誤った方向で人を規律化することは
 正しくないと 思いました。

- ・ルール^の運用に関わる課題と、よりよいルールづくりに必要なことについて記述されており、その内容にも根拠があることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

【評価Cの例】

ルールは権力者の命令の良しようにして、権力者
 の命令の良しように運営される

- ・ルール^の運用に関わる課題のみの記述であることから、「努力を要する」状況(C)と判断した。

【「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て】

教師の説明や生徒同士の話し合いから、ルール^の運用やよりよいルールづくりに関わる課題について振り返らせるとともに、先哲の思想などを参考にしながら、その解決に向けた方策を考えることができるように支援した。

7 事例3 観点別学習状況の評価の進め方 主体的に学習に取り組む態度

(1) 第6次の目標

これまでの学習を振り返り、人間としてよりよく生きることができ理想の社会の在り方について主体的に考える。

(2) 第6次の評価規準

よりよく生きることができ理想の社会の在り方について、考えが深まるきっかけとなった意見や、新たに加わった視点などを踏まえて、理想の社会の実現を担う自覚を深めている。(ワークシート)

(3) 指導と評価の流れ

【指導の工夫】

・単元の学習内容を振り返った後に、よりよく生きるために社会はどのようにあるべきかについて、自分の考えをまとめてグループで発表し合い、考えを共有する場面を設定した。教師自身の考えも生徒に示しながら、共に考えられるよう授業を展開した。

【評価の工夫】

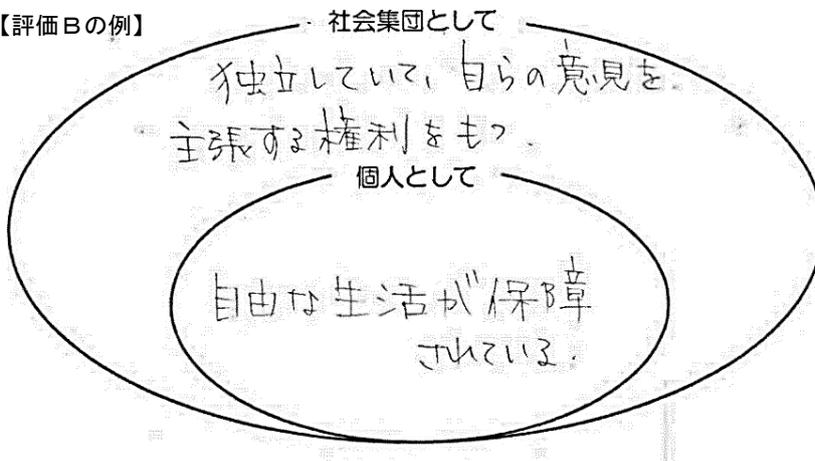
- ①単元で学習したことを踏まえて、自分がどう生きるか、社会とどのように関わっていくかという自分の考えを、単に文章で記述させるのではなく、ワークシートにまとめさせ、その記述内容を評価した。
- ②考えを構造的に確認できるようにしたことで、生徒に学びの深まりを実感させることができ、教師は、生徒が思考した量、内容、質などを捉えやすくなった。

学習場面	学習活動（◇ 学習活動、留> 指導上の留意点）	「評定に用いる評価」の評価規準(評価方法)
学習課題	これからどんな社会をつくっていったらいいのだろう。	
導入	◇ これまでの学習で考えてきた「国家はなぜ必要なのだろう」、「どのようにルールを決め、どのように運用したらよいだろう」、「よりよく生きるために何ができるだろう」についての自分の考えをまとめ、単元の振り返りを行う。 留>単元全体を通して、自分の考えを深めるきっかけとなった気づきの場面について、意識して振り返るよう指示する。	
展開	よりよく生きるための理想の社会の在り方を考えよう。 ◇ 振り返った内容を基に、よりよく生きるためには、社会はどのようにあるべきかについて自分の考えをまとめ、生徒同士で発表し合い、考えを共有する。 【指導の工夫】 留>自由と権利の行使においては、他者の自由や権利を侵害しないという制約が伴うこと、自己の個性を生かすには、社会的な関係の中に生きていることが前提になることを多面的・多角的に考察し、表現できるよう支援する。 留>教師自身が考えを示す際は、一つの考え方であることを明確に示し、価値観の押しつけにならないよう留意する。	

	よりよく生きることができる理想の社会とは、どのような社会なのだろう。	
ま と め	<p>◇ よりよく生きることができる理想の社会について、単元全体を通して深めた考えを踏まえ、ワークシートに図示する。</p> <p>留>授業ごとに記入した振り返りも参考になることを示し、社会のあるべき姿に加え、自分がどう生きたいか、社会とどのように関わっていききたいかなどについても記入するよう指示する。</p>	<p>○ よりよく生きることができる理想の社会の在り方について、考えが深まるきっかけとなった意見や、新たに加わった視点などを踏まえて、理想の社会の実現を担う自覚を深めている。</p> <p>(ワークシート)</p>

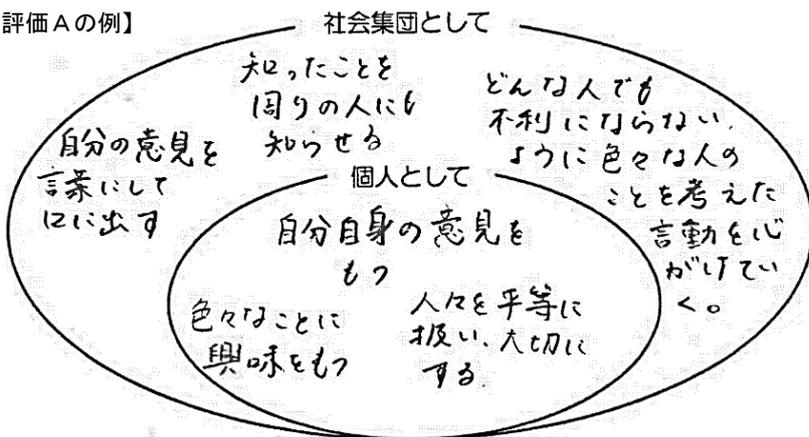
(4) 「主体的に学習に取り組む態度」の評価例 (ワークシートにおける生徒の記述)

【評価Bの例】



・人間としてよりよく生きることについての考えが示されており、理想の社会の実現に向けた記述が見られることから、「おおむね満足できる」状況(B)と判断した。

【評価Aの例】



・人間としてよりよく生きることについて、単元で学習した内容に触れながら考えが示されており、理想の社会の実現を自分事として捉えた記述がみられることから、「十分満足できる」状況(A)と判断した。

【評価Cの例】



- ・人間としてよりよく生きることについてのみの記述であることから、「努力を要する」状況(C)と判断した。

〔「努力を要する」状況と評価した生徒に対する指導の手立て〕

- ・授業ごと記入したワークシートの振り返りの記述から、考えが深まるきっかけとなった他人の意見や新たに自分に加わった視点などに気付かせ、それらを手掛かりに理想の社会の在り方について考えをまとめることができるように支援した。